

森林・林業・木材産業グリーン成長総合対策 のうち
スマート林業・DX推進総合対策

令和8年度予算概算要求額 403百万円（前年度 217百万円）

<対策のポイント>

林業の安全性、生産性及び収益性の飛躍的な向上を図るため、スマート林業技術の導入環境整備、林業機械・機器や木質系新素材等の開発・実証、スマート林業技術を活用する新たな作業システムの構築、地域一体で林業活動にデジタル技術をフル活用する拠点づくり等を支援します。

<事業目標>

デジタル技術を地域一体でフル活用する取組の普及（デジタル林業戦略拠点が1つ以上ある都道府県数25〔令和12年度まで〕）

<事業の内容>

1. スマート林業技術導入環境整備事業70百万円（前年度 52百万円）

林業分野への新技術の導入を加速するための全国規模のプラットフォームの運営支援、次世代技術の活用手法調査、スマート林業技術の安全確保のためのルールづくり等を実施します。

2. スマート林業等技術開発・活用推進対策230百万円（前年度 70百万円）

① 戦略的技術開発・実証事業80百万円（前年度 70百万円）

スマート林業機械・機器、木質系新素材等の開発・実証を支援します。

② スマート林業技術活用推進事業150百万円（前年度 - ）

伐採・搬出から造林に至る一連の施業に、最先端のスマート林業機械・機器を組み合わせ活用する新たな作業システムの構築を支援します。

<事業イメージ>

スマート林業技術導入環境整備事業

「森ハブ・プラットフォーム」のイメージ

○林業分野への異分野企業等の参入を促すプラットフォームの運営

○生成AI、自立歩行ロボット等の林業分野への活用調査

○スマート林業技術の安全確保のためのルール整備

○林地台帳を効率的に更新するツールの整備等

スマート林業等技術開発・活用推進対策

①スマート林業機械・機器、木質系新素材等の開発・実証

②伐採・搬出から造林に至る一連の施業に最先端のスマート林業機械・機器を活用

新たな作業システムのイメージ

伐倒・木寄せ集材造林

遠隔操作伐倒機械自動運転フォワーダ自動運転下刈り機械

改質リグニン

スギを原料とする新素材「改質リグニン」の社会実装に向けた技術等の開発・実証

3. 林業DX推進対策103百万円（前年度 95百万円）

地域一体で林業活動にデジタル技術をフル活用する拠点づくりを支援します。

<事業の流れ>

国

委託、定額、1/2

地域コンソーシアム、民間団体等（1、2①、3の事業）※国有林では直轄で実施

定額

民間団体等

定額、1/2

民間団体等（2②の事業）

【お問い合わせ先】 林野庁研究指導課（03-3501-5025）